

“鍛えて、ほめて、伸ばす！子どもの可能性”

～「鍛ほめ福岡メソッド」展開中！～



福岡教育事務所・社会教育室

事業報告	令和4年度福岡教育事務所管内「地域活動指導員・子どもの体験活動研修会」 (オンライン開催)	
期日	令和4年7月15日(金)	
参加者	31名	
日程	時間	内 容
	9:15	※Zoom入室時間
	9:30	【開会行事】 【説 明】 「本研修会のねらいについて」 福岡教育事務所 社会教育室 社会教育主事 山森 直哉
	9:35	
	9:50	【事例発表】 「joyひこばえの発達支援」 事例発表者 児童発達支援センター joyひこばえ 園長 力丸 敏光 氏
	10:45	【講義・演習】 「困っている子どもの理解と支援の在り方」 福岡教育事務所 教育相談室 指導主事 藤 康宏
	11:45	【閉 会】
11:55		

### 【事例発表】

児童発達支援センター joy ひこばえ園長 力丸 敏光氏に「joy ひこばえの発達支援」と題して、事例発表をしていただきました。「joy ひこばえ」は、知的な発達の遅れや発達の偏りをもった3歳から5歳の子どもや、家族の支援を目的とした通園施設です。その「joy ひこばえ」での発達支援事例についてのお話をさせていただきました。

「落ち着きがなくすぐに離席してしまう子ども」「順番が待てない子ども」様々な子どもに対してどのような支援を行っているか発表していただきました。そして、全ての子どもに通じるポイントとして、褒めながら育てるということを強く話されていました。

参加者のアンケートには、「10分の3で褒めるのを心がけます」や「短絡的に怒ってしまうが、その前に一呼吸置いてその原因を考えて叱るように心がけます」など、今後の活動の参考になったという感想が多く聞かれました。

### 【講義・演習】

福岡教育事務所 教育相談室 藤指導主事が「困っている子どもの理解と支援の在り方」と題して、講義・演習を行いました。

「困っている子ども」の理解については、困っている子どもをスモールステップで段階的に認めていくとよいと説明しました。困っている子どもに100を求めるより、まずできていることを認めていくという考え方です。「変だなあ。」「できないなあ。」という見方ではなく、「困っているんだな。」という見方になるとき、その子どもの心の中まで見えてくるかもしれないということです。

演習では、具体的な場面を通して、「どのように対応するか」や「どのように環境を整えるか」など、3～4人のグループで協議を行いました。

参加者のアンケートには、「困っている子どもに対面した時にClose（近づいて）Calm（穏やかに）Quiet（小声で）のCCQの原則を意識して環境の調整、クリアな指示を心がけたい」や「子どもにかける言葉は、やるべきことを具体的に指示することを心がける」など、今後すぐに実践したいという感想が多く聞かれました。



【力丸氏による事例発表の様子】



【藤指導主事による講義の様子】

活  
動  
の  
実  
際

全  
体  
を  
と  
お  
し  
て

参加者アンケートでは、「一人ひとりに寄り添えるような指導者をめざしたい」や「褒め方や叱り方に気を付け、困っている子の力になれるような教員になりたい」など、今後の活動のヒントを得ることができたことが分かる記述が多く見られました。このことから本研修会が、参加者にとって有意義なものになったのではないかと考えます。

福岡教育事務所社会教育室といたしましても、今後も管内市町の地域活動指導員の方、子どもの体験活動に携わる方に対しての支援や情報提供を行っていきたいと思います。

また、本研修会は、地域活動指導員の方対象の研修会となっておりますが、残念ながら全対象者のご参加はいただけませんでした。参加対象者の研修のニーズを把握し、ご参加していただけるような魅力ある研修の内容を今後も企画していきたいと思います。